

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 福岡県 】

1 実践テーマ	【 Ⅲ 】
2 実施対象者	大牟田市立天領小学校 4年生 74名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（ 総合的な学習の時間 ）</p> <p>② 行事名（ パラリンピアンと交流しよう ）</p> <p>③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）</p> <p>② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	パラリンピアンの体験やエピソードを聞くことで、パラリンピックに関するスポーツの意義や価値について関心を高めるとともに、その理解を深めることができる。また、スポーツの素晴らしさや困難に負けず目標に向かって努力することの大切さを知ることができる。
5 取組内容	<p>【事前学習：行事「パラリンピアンとの交流」】</p> <p>○ パラリンピアンとの交流</p> <p>車いすテニスの川野将太選手の講話やプレーを見学することで、選手の生き方や考え方を知ると共に、スポーツの素晴らしさや困難に負けず目標に向かって努力することの大切さを学ぶ。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">＜車いすテニス 川野将太選手＞</p> <p>【本時学習：総合的な学習の時間「私たちオリパラ応援隊！」】</p> <p>これまでに会ったオリンピック・パラリンピアンから学んだことを通して、選手のすごさや生き方から自分達にできること（応援・知らせる・支える）を考え、発信する学習を行った。</p> <p>○ 課題設定</p> <p>選手との交流を通して、選手のすごさやこれから学習していきたいことを話し合い、児童の考えを「応援したい！・知らせたい！・支えたい！」という3つの活動に仲間分けを行い、どのような取り組みを行っていくかを決めた。</p>

○ 情報収集

本やインターネットを使って、パラリンピックの選手や競技、種目について調べる活動を設定した。

○ 整理・分析

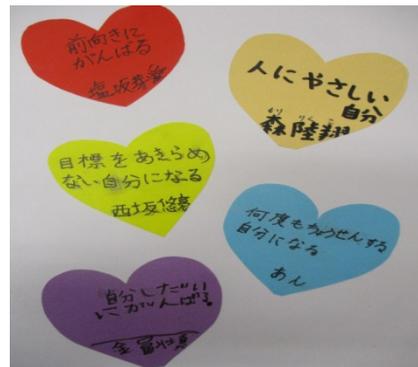
自分達の思いをどのような表現方法で伝えたらよいかを話し合い、  
①応援を伝えるための応援旗・手紙作り②パラリンピックについて知らせるための新聞作り③身近な地域で自分達にできることを呼びかけるポスター作りの3グループに分かれて活動を行った。

① 応援したい!

川野選手のすごさを知り、東京パラリンピックへ向けて頑張ってもらいたいという思いを届けたい思いから、旗作りを行った。また、選手だけでなく自分達も共に頑張るという宣言を手紙として作成した。



<川野選手への応援旗>



<川野選手へのお手紙>

② 知らせたい!

オリンピックと比べてパラリンピックはあまり知られてないという現状から、パラリンピックの選手や競技、種目について伝えたいという思いを持ち、新聞作りを行った。



<パラリンピックの種目や競技新聞>



③ 支えたい!

東京オリンピック・パラリンピックには、なかなか関わることが難しいという課題から、身近にいる障がいのある方々や困っている方々にできること（点字ブロックの上に物を置かない・車いす専用駐車）を呼びかけるポスター作成を行った。



<自分達ができることを呼びかけるポスター>

	<p>○ まとめ・表現</p> <p>①応援したい→川野選手へ応援旗と手紙を送る</p> <p>②知らせたい→新聞を学校に掲示する</p> <p>③支えたい →ポスターをスーパーに掲示してもらう</p> <p>④大牟田市ユネスコスクール子どもサミットで、自分達の学習成果を発表し、市内全体にパラリンピックの素晴らしさを広めた。</p>
6 主な成果	<p>○ パラリンピックの教材化</p> <p>川野選手の「周りの方々に支えられてここまで強くなった。周りの方への感謝。」という言葉から、自分の町に住む全ての人との共生について考え「車いす駐車場は広がっているから、駐車はしない。」「色々なところに点字が使われている。」など、身近な所から気付きを広げることができた。</p> <p>○ 教師の手応え</p> <p>パラリンピアンとの交流を通して、児童は選手のすごさや感謝の気持ちの大切さを知り、憧れや尊敬の思いを持つと共に、自らの生き方を振り返ることができた。また児童も 2020 年へ向けて共に頑張りたいという思いを持つことができ、身近な所から自分達もできることに取り組んで生きたいという強い思いを持つ様子が見られた。</p>
7実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>川野選手との交流を生かし、児童の感想を踏まえ自主的に活動できるように、「応援したい・知らせたい・支えたい」という3つの観点で取り組みを行ったこと。</p>
8主な課題等	<p>実践の幅を広げるために、年間指導計画に「オリ・パラ教育」をどのように位置付け、系統性を持たせて実践を積み重ねていくかが大きな課題である。</p> <p>児童もオリ・パラ選手と同様に努力する力を持っていることに気づかせたり、オリンピック・パラリンピックをより身近に感じたりするために、教材の工夫をすることが必要である。</p>
9来年度以降 の実施予定	<p>選手との交流や各教科の学習を関連させながら横断的・総合的に学習を展開し、より効果的に学習が進められるようにしていきたい。</p>